

第3回学校規模適正化(第2期)説明会

吹田市教育委員会学校教育部

教育未来創生室

- 様々な意見や要望を受けての修正案の提示
- 統合に至る検討経過や分析結果等の情報開示

- ・ 児童への精神的ケアを説明してほしい

〔前回の回答〕

教職員の人事面での配慮を検討しています。

〔追加・修正〕

教職員を複数名増員し、児童の精神的ケアや生活支援・学習支援の実施を検討します。

・経過措置の期間を明らかにしてほしい

〔前回の回答〕

今後の実績を確認の上、判断します。

〔追加・修正〕

実績を確認する時期は、10年後とします。

〔参考：令和5年度0歳児の場合〕

1年後 R8	2年後 R9	3年後 R10	4年後 R11	5年度 R12	6年後 R13	7年後 R14	8年後 R15	9年後 R16	10年後 R17
3歳	4歳	5歳	6歳	小1	小2	小3	小4	小5	小6

- ・ 統合後に学校の名称はどうなりますか。

〔前回の回答〕

現時点では山田第三小学校で考えていますが、意見があれば検討はします。

〔追加・修正〕

児童にも意見を聞き、総合的に判断すること
とします。

- ・ スケジュールが早すぎる。
- ・ この短い期間で進めるのはどうなのか。
- ・ 統合の実施時期を十数年後にできませんか。
- ・ 実施時期が令和7年度以降に延期の可能性は？
- ・ 1年ずれたら大きな影響はありますか。

学校規模適正化の検討経過

令和元年度	令和2年度		令和3年度		令和4年度			令和5年度	
3月	7月	3月	7月	11月	5月	6月	11月	8月	9月
山五小PTA等と会合	吹田市立学校規模等検討委員会諮問	山五小PTA等と会合	吹田市立学校規模等検討委員会答申	学校規模適正化基本方針策定	学校規模適正化アンケート	第1期適正化の方向性	策定（藤白台小学校） 学校規模適正化実施計画（第1期）	第2期適正化の方向性	保護者説明会

手続きを積み上げて、着実に進めております。

< 山田第五小学校の学校規模適正化に係る協議 >

市長協議 3回

副市長協議 6回

教育長協議 7回

部長協議 8回

関係者協議等 30回

合計 50回以上実施

児童は小学校の6年間で、約1,200日（約6,000時間）を学校で過ごします。学校は、知識等の習得だけでなく、大人への成長の場としても大変重要であると考えており、速やかに子供たちにとってより良い教育環境を実現すべきと考えております。

<過小規模校のデメリット>

- ・クラス替えができないことから、人間関係が固定化します。
- ・集団内の役割分担や序列から抜け出せないことが生じることがあります。
- ・人間関係のトラブル時にクラス替えができず、逃げ場が無くなってしまいうこともあります。
- ・集団内の男女比に極端な偏りが生じることがあります。
- ・多様な価値観に触れる機会が少なく、社会性や対人スキルの向上に課題があります。

質問・ご意見に対する回答

Q 8月16日開催の教育委員会会議の議事録を見せてください。

現在、作成中です。10月16日の週にはホームページでアップする予定です。

Q 保護者説明会の議事録をパブコメまでに見れるようにしてください。

教育未来創生室のホームページに公開しております。

この説明会の案内にQRコードをお示ししておりますので、
ご確認ください。

Q 西山田中学校まで自転車やバス通学を許可する検討を再度してもらいたい。

再度、検討しましたが、西山田中学校までの距離が1.4km～1.9kmであり、徒歩での通学が困難とは言えないこと、また本市では、山田第五小学校区と比較して、中学校までの通学距離が長い地域が多数あることから、西山田中学校までは、徒歩での通学を考えております。

Q なぜ、2，3年前に山田第五小学校の大規模改修をしたのですか。

統合の決定前であるため、子供たちに必要な措置は全て実施
しています。

検討経過の情報開示 (児童数推計)

児童・生徒数の中位推計

【基本情報】

0歳 ~ 5歳 : 住民基本台帳

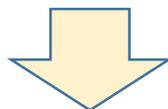
小学校1年生 ~ 中学3年生 : 学校の在籍数

+

【開発情報】

開発による
転入人数 : 開発戸数 × 出現率

※ 開発戸数 : すまいる条例に基づく届出
出現率 : 1戸あたりの各年齢別の転入率



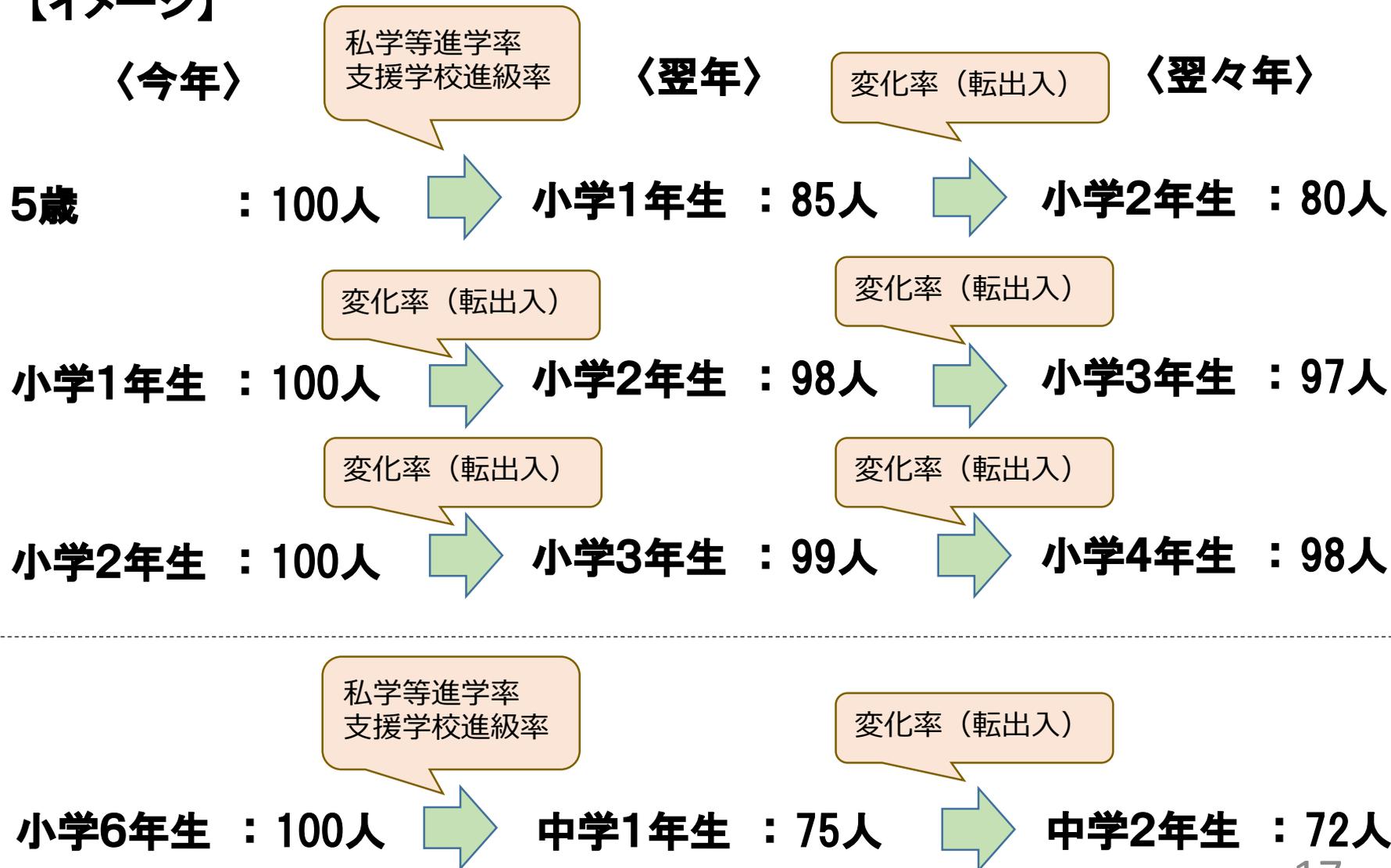
年齢別の上記人数に、毎年変化率等を乗じてスライド移行

【イメージ】

〈今年〉		〈翌年〉		〈翌々年〉	
5歳	: 100人	小学1年生	: 85人	小学2年生	: 80人
小学1年生	: 100人	小学2年生	: 98人	小学3年生	: 97人
小学2年生	: 100人	小学3年生	: 99人	小学4年生	: 98人

児童・生徒数の中位推計

【イメージ】



児童・生徒数の長期推計（0歳出生数の算出）

0歳出生数

=

15歳 ~ 49歳の
各年齢別の女性人数

×

各年齢別
地域補正後出生率

各年齢別の算出結果の合計

現在のデータや過去の実績を踏まえ、客観的な情報に基づき、児童生徒数推計を実施しています。

検討経過の情報開示

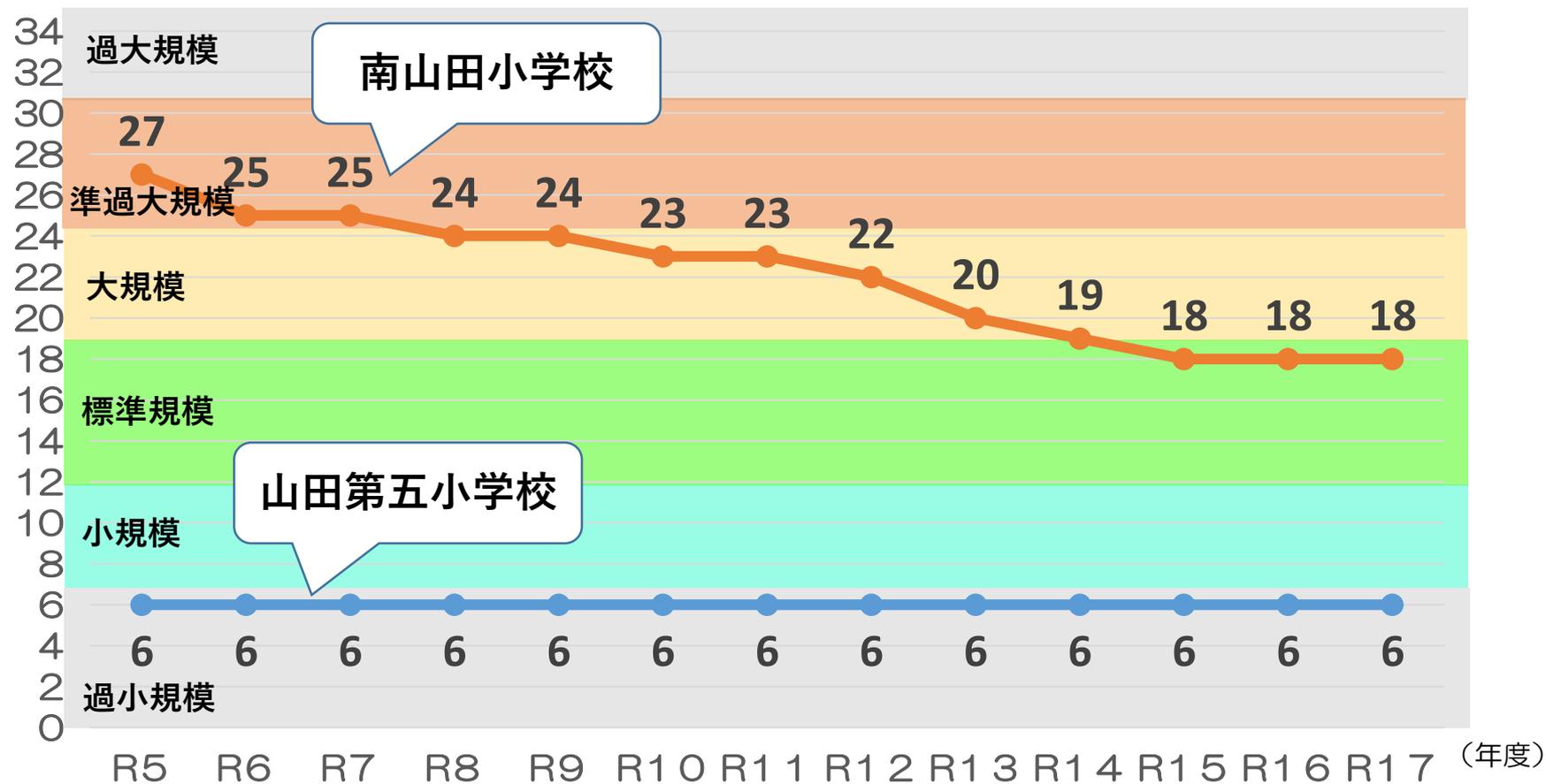
(南山田小学校との通学区域の見直し)

南山田小学校との通学区域見直しの課題

- **山三小の過小規模校化の問題が残る(根本原因の解消に繋がらない)**
- **根本原因の解消に繋がらない手法に、当事者でない南山田小児童の転校は、納得を得ることが困難**
- **現校舎では教室が不足するため、大規模な校舎の増築が必要**
- 転校により友達と別れることで、児童の心理的影響を懸念する声が多い
- 通学路の安全を懸念する声が多い
- 社会教育施設である南山田地区公民館が南山田小学校区外になる
- 広域の見直しが必要（長野西・檜切山・山田市場）で、校区面積が逆転し、南山田小学校区が市内で4番目に小さい校区となる

山田第五小学校と南山田小学校の状況

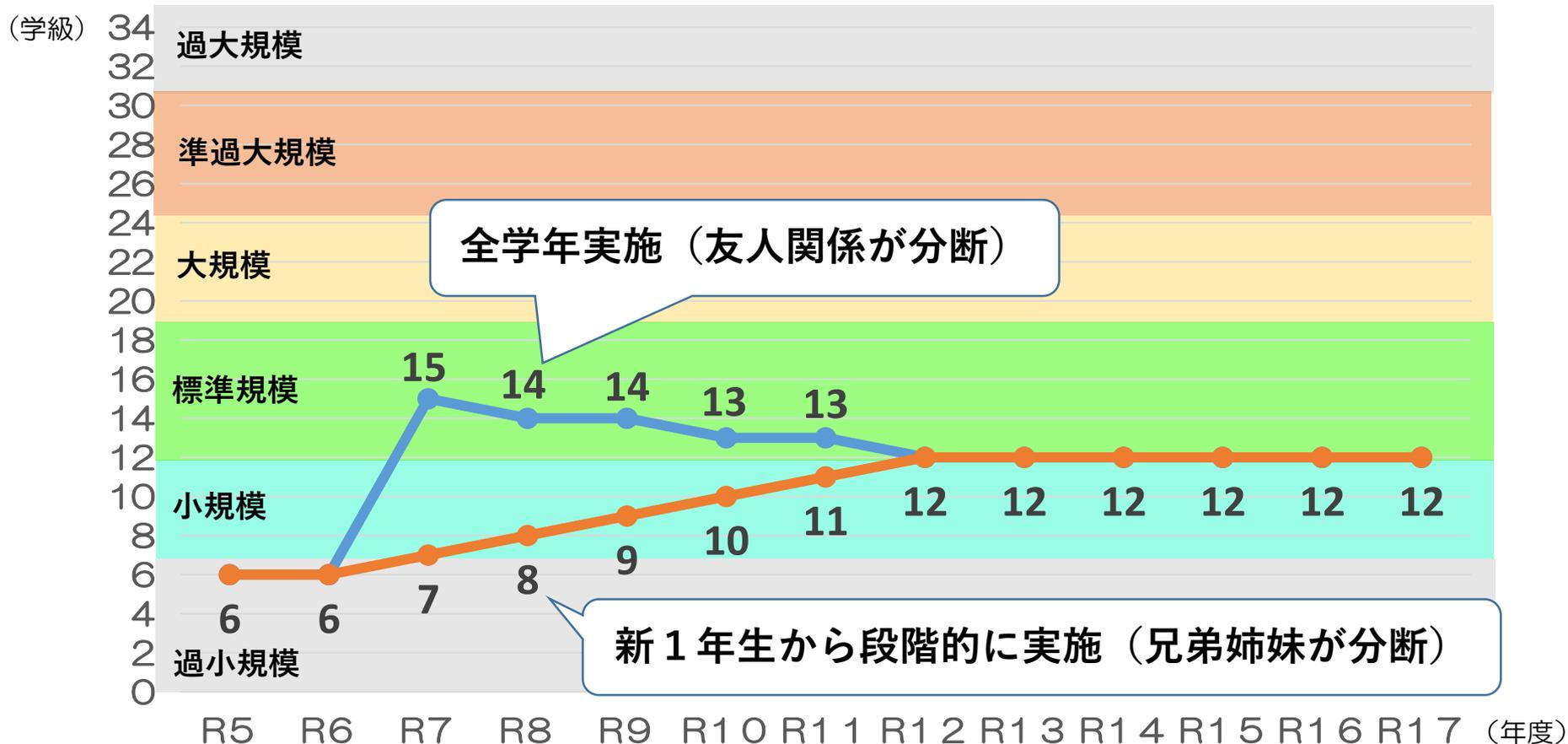
(学級)



南山田小との通学区の見直しを実施した場合

山田第五小学校の児童数推計

長野西・檜切山・山田市場(9～11番以外)を南山田小学校区から山田第五小学校区に見直し

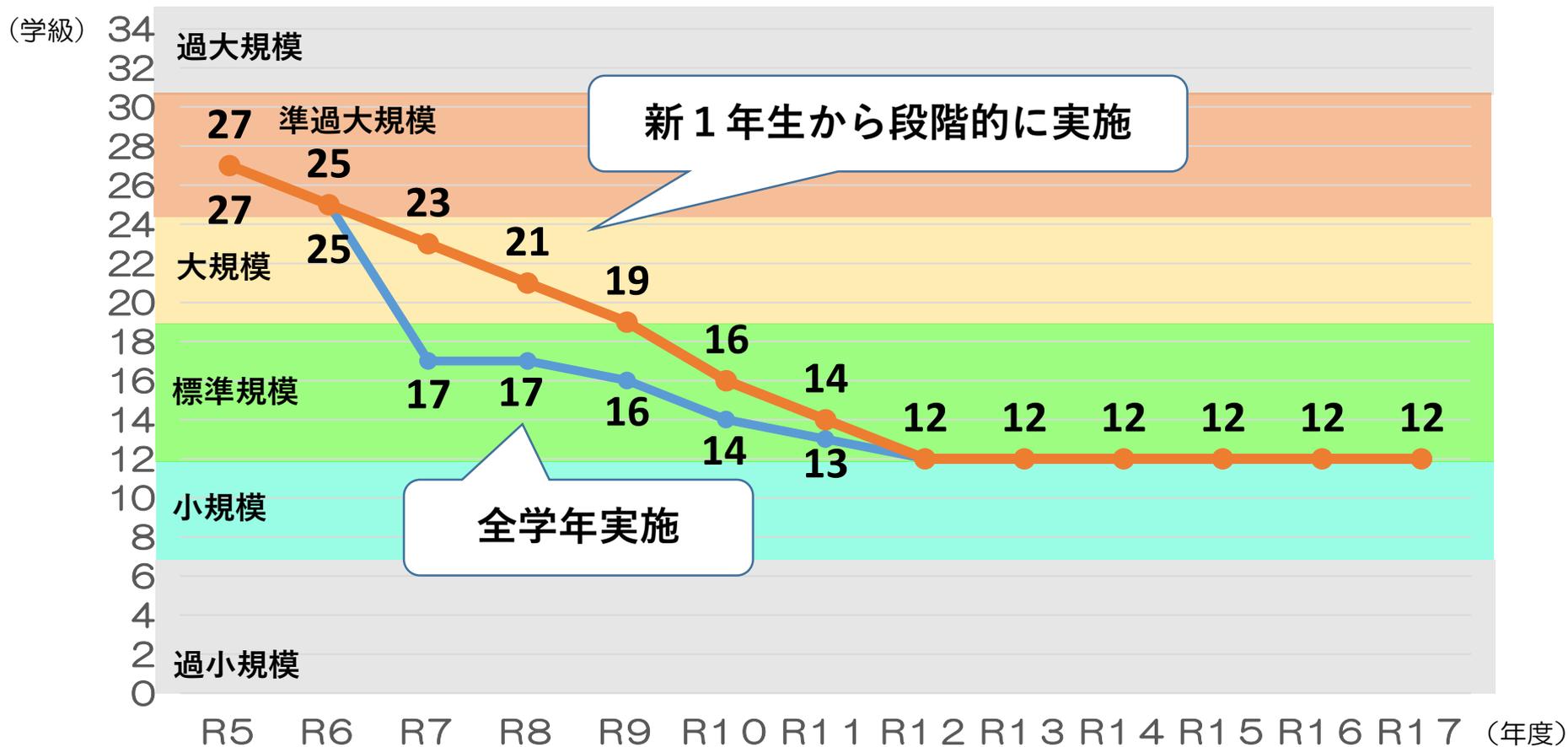


- ・令和7年度に全学年一度に実施をした場合、適正化を図ることはできますが、転校により友人関係の分断が発生します。
- ・友人関係に配慮し、段階的に実施した場合、制度の完成に6年間が必要となる上、兄弟姉妹が別々の小学校となります。

南山田小との通学区の見直しを実施した場合

南山田小学校の児童数推計

長野西・檜切山・山田市場9～11番以外を南山田小学校区から山田第五小学校区に見直し



南山田小との通学区域の見直しを実施した場合、増築が必要

山田第五小学校の保有教室数と必要教室数

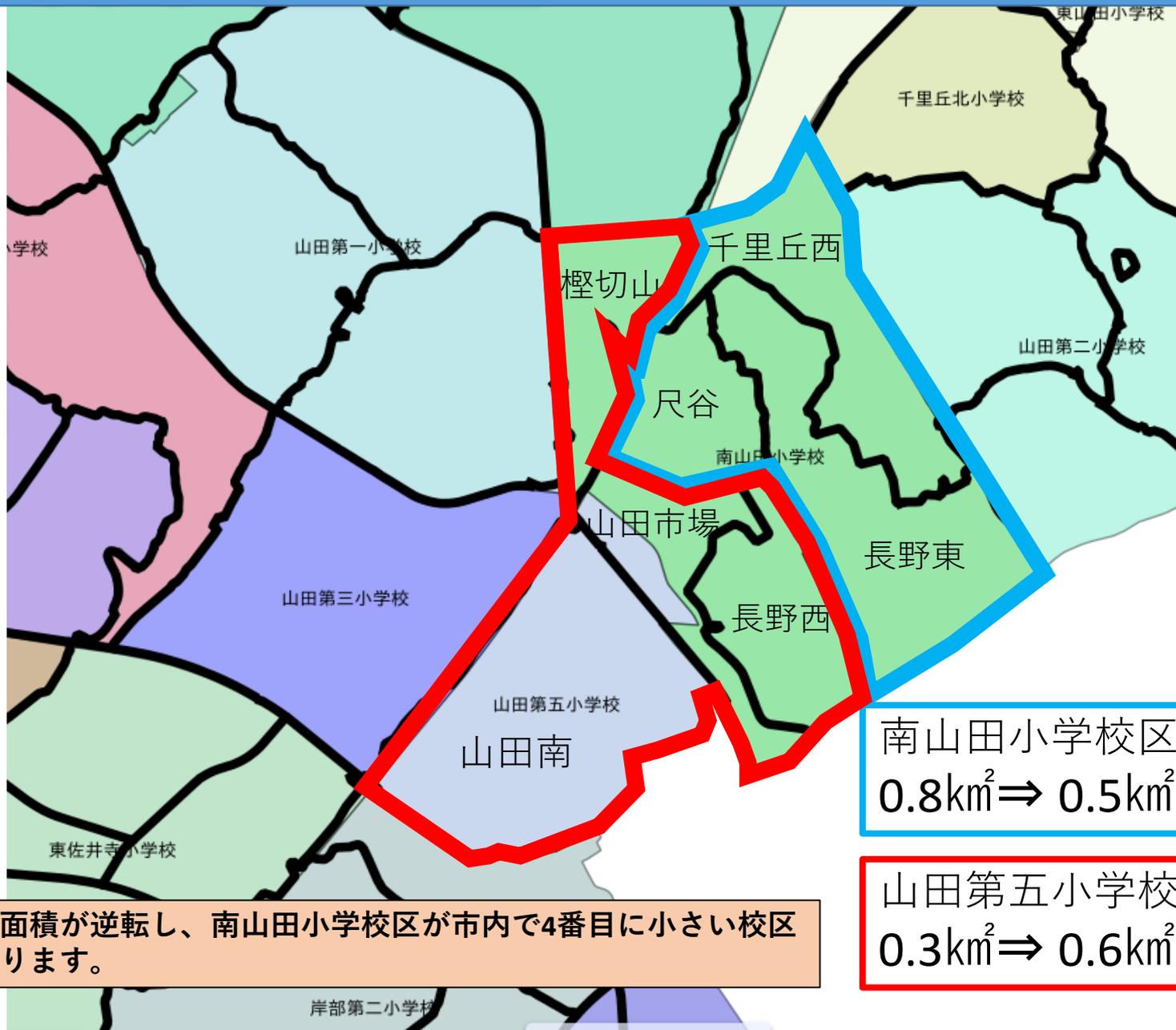
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
保有教室	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
必要教室	13	14	28	25	25	24	24	23	23	23	23	23	23	23	23	23
差	7	6	▲8	▲5	▲5	▲4	▲4	▲3	▲3	▲3	▲3	▲3	▲3	▲3	▲3	▲3

〔必要教室内訳〕

	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19	R20
通常学級	6	6	15	14	14	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12
支援教室	4	4	7	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
通級学級	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
少人数学級	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
留守家庭	2	2	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3

最大15学級となることに伴い、支援教室や留守家庭児童育成室などの教室も必要となり、教室不足が発生します。

南山田小との通学区の見直しを実施した場合



校区面積が逆転し、南山田小学校区が市内で4番目に小さい校区となります。

南山田小学校区
0.8km²⇒ 0.5km²

山田第五小学校区
0.3km²⇒ 0.6km²

歴史的な経過から検討

明治6年（1873年）
山田第一小学校

昭和27年
（1952年）
山田第二小学校

昭和54年
（1979年）
西山田小学校

統合

昭和49年
（1974年）
山田第三小学校

昭和52年
（1977年）
南山田小学校

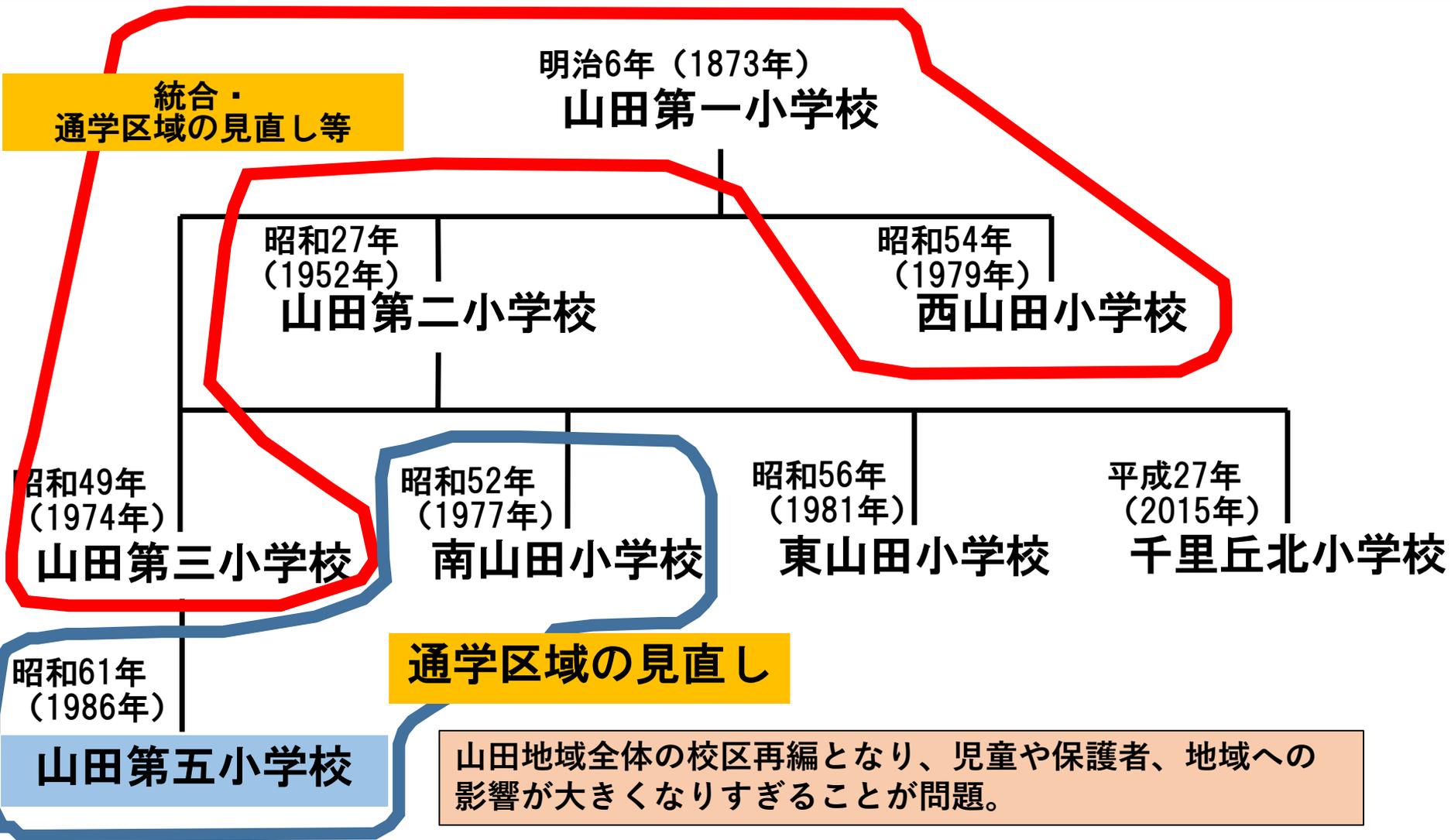
昭和56年
（1981年）
東山田小学校

平成27年
（2015年）
千里丘北小学校

昭和61年
（1986年）
山田第五小学校

過去、児童が多くなりすぎたため分離新設したものを、
両校が過小規模となるため、元に戻すものです。

歴史的な経過から検討



検討経過の情報開示 (統合の検討)

大阪府の公立小学校の状況（令和元年度～）

【令和元年度（2019年度）】

四条畷市立四条畷東小学校

四条畷市立四条畷小学校

→ 四条畷小学校へ統合

大阪市立佃南小学校

大阪市立佃西小学校

→ 佃西小学校へ統合

【令和3年度（2021年度）】

大阪市立御幸森小学校

大阪市立中川小学校

→ 2校統合、大池小学校へ

大阪市立梅南津守小学校

大阪市立松之宮小学校

→ 2校統合、まつば小学校へ

枚方市立高陵小学校

枚方市立中宮北小学校

→ 2校統合、禁野小学校へ

交野市立交野小学校

交野市立長宝寺小学校

→ 2校統合、交野みらい小学校へ

【令和4年度（2022年度）】

大阪市立林寺小学校

大阪市立生野小学校

大阪市立舍利寺小学校

大阪市立西生野小学校

→ 義務教育学校生野未来学園へ

大阪市立田島小学校

大阪市立生野南小学校

→ 2校統合、田島南小学校へ

豊中市立庄内小学校

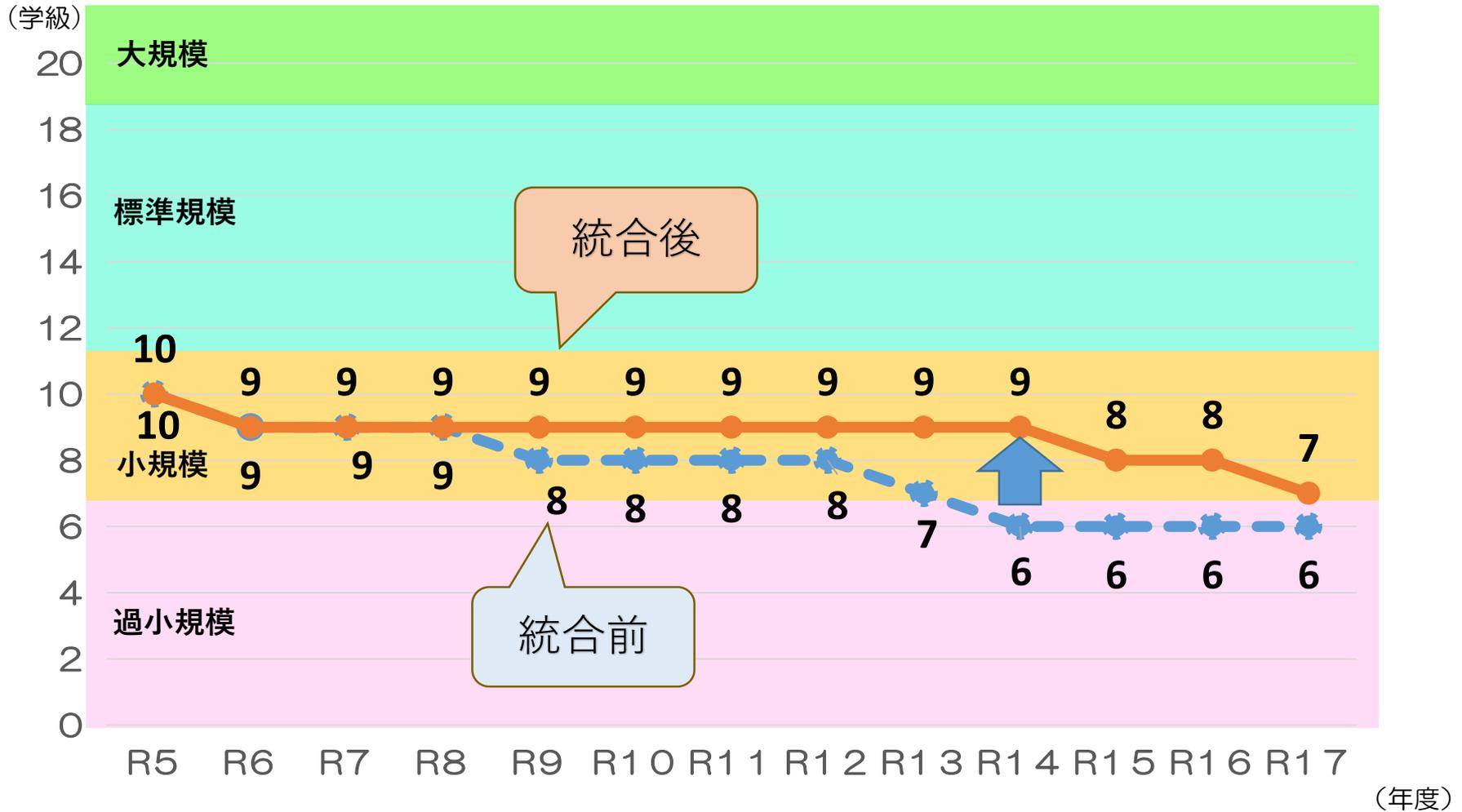
豊中市立野田小学校

豊中市立島田小学校

→ 義務教育学校庄内さくら学園へ

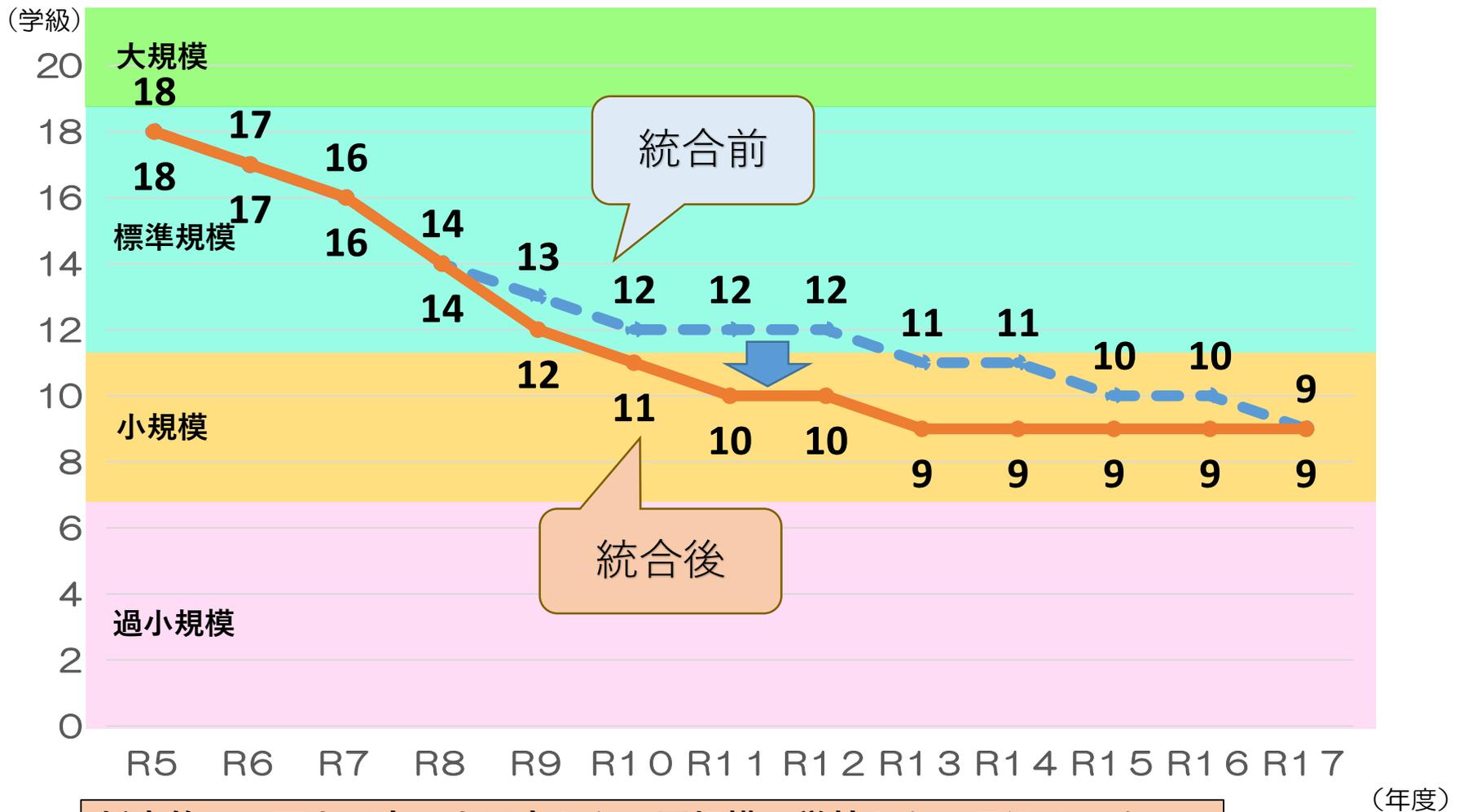
統合後の西山田中学校の学級数

西山田中学校



統合後の山田中学校の学級数

山田中学校



将来的に、西山田中・山田中ともに同規模の学校となる見込みです。

検討経過の情報開示 (学校選択制 (小規模特認校制) の導入)

- **将来に渡って継続して導入効果を得ることができるか不確実**
 - 最低でも70人程度以上の児童の希望者が必要
 - 先進市実績では、小規模特認校在校児童の2割が制度活用児童
- **学習指導要領に基づく、各教科の必要授業数があるため、極端なカリキュラムを組むことは困難**
- 通学路が多岐にわたり、安全対策が難しい

学校選択制(小規模特認校制)の導入状況

導入年度	市名	小学校名	主な力を入れている取組	活用児童割合
H29	A市	G小学校	I C T	1割
		H小学校	体育推進	1～2割
	B市	I学園	縦割り教育（義務教育学校）	0.3割
R1	C市	J小学校	自然体験学習、縦割り教育など	3割
	D市	K学園	縦割り教育 （中学校の先生が小学生の授業を実施）	2～3割
R2	E市	L小学校	スポーツ活動等	2割
R5	F市	M小学校	未来探求過程（人権教育・キャリア教育）	4割
		N小学校	未来探求過程（人権教育・キャリア教育）	0割
		O小中学校	英語教育（ALTの常時配置など）	3割

複数学級の実現に必要な児童数

1 通常学級 推計

年度	R5. 5. 1		R6. 4. 1		R7. 4. 1		R8. 4. 1		R9. 4. 1		R10. 4. 1		R11. 4. 1	
学 齢	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数	児 童 数	学 級 数
1 年生	28	1	34	1	21	1	28	1	23	1	28	1	22	1
2 年生	20	1	27	1	32	1	20	1	27	1	22	1	27	1
3 年生	29	1	20	1	27	1	32	1	20	1	27	1	22	1
4 年生	16	1	28	1	19	1	26	1	31	1	19	1	26	1
5 年生	27	1	16	1	28	1	19	1	26	1	31	1	19	1
6 年生	26	1	27	1	16	1	28	1	19	1	26	1	31	1
小 計	146	6	152	6	143	6	153	6	146	6	153	6	147	6

2 単学級解消のための必要児童数

年度	R5. 5. 1	R6. 4. 1	R7. 4. 1	R8. 4. 1	R9. 4. 1	R10. 4. 1	R11. 4. 1
学 齢	児 童 数	児 童 数	児 童 数	児 童 数	児 童 数	児 童 数	児 童 数
1 年生	8	2	15	8	13	8	14
2 年生	16	9	4	16	9	14	9
3 年生	7	16	9	4	16	9	14
4 年生	20	8	17	10	5	17	10
5 年生	14	20	8	17	10	5	17
6 年生	15	14	20	8	17	10	5
小 計	80	69	73	63	70	63	69

全学年が複数学級となるための最低必要人数

学校選択制(小規模特認校制)の想定導入効果

先進市の導入効果平均：約2割

山田第五小学校の全児童数：164人

(令和5年5月1日現在)

山田第五小学校での導入効果：41人

$$\left(\begin{array}{l} \text{計算式：} 164/164+x = 0.8 \\ x = 41 \end{array} \right)$$

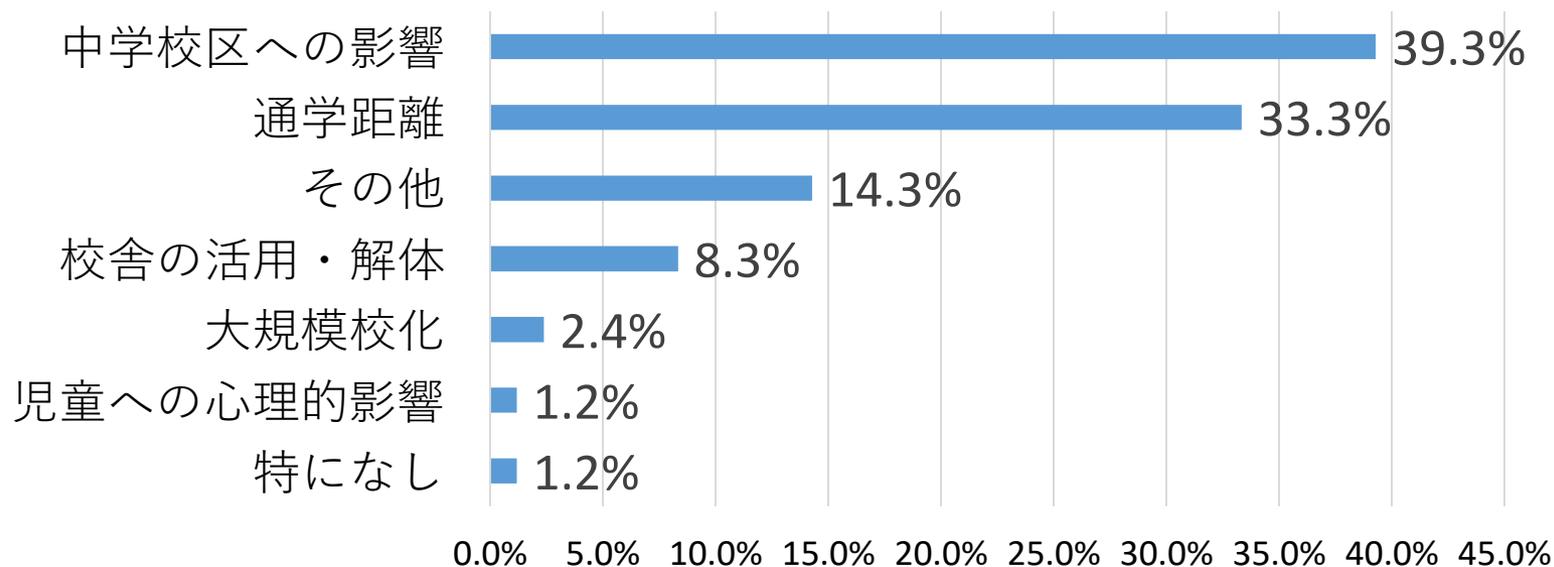
最低でも70人程度以上の児童の希望者が必要なところ、40人程度の効果しか見込めず、適正化を図ることができない。

検討経過の情報開示

(各小学校の保護者のアンケート結果)

統合に対するアンケート結果

【山田第五小学校児童の保護者が考える統合の課題】 (57人 84件)

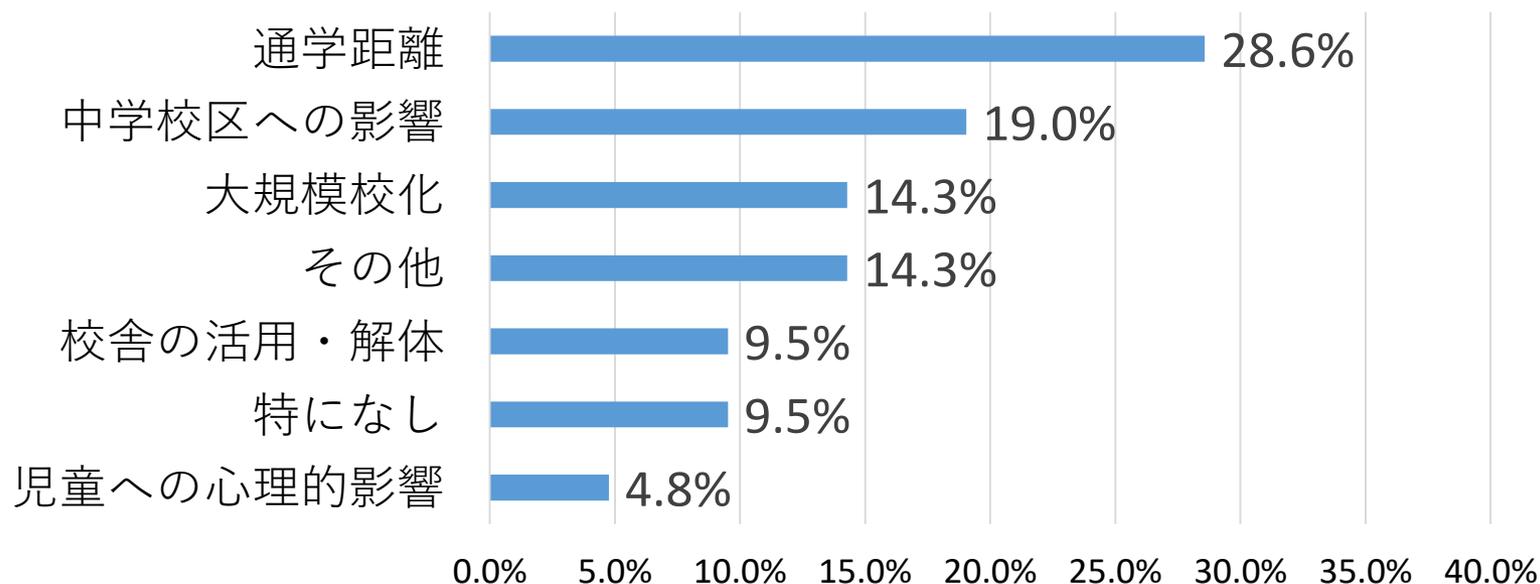


その他の意見例

- ・現実的ではあると思います。
- ・40年ほど前に山田第三がパンクして山田第五小学校が出来たのに、また統合するのはよく分かりません
- ・体育館の改修の意味は？
- ・クラス数、人数が多くなる事により、担任によるアプローチが上手くいかない。
- ・山五地域がなくなることにつながるので、今まで築き上げてきた地域活動に影響が大きい。

統合に対するアンケート結果

【山田第三小学校児童の保護者が考える統合の課題】 (15人 21件)

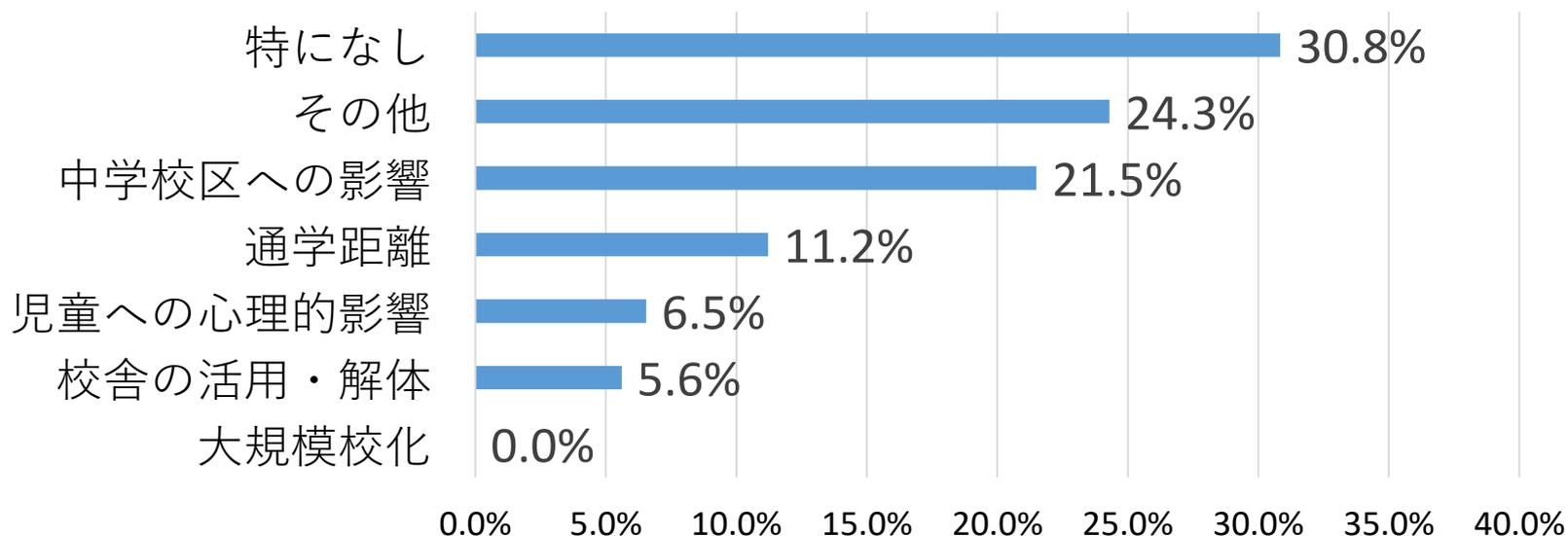


その他の意見例

- ・ 第五小学校の教育方針、授業方針、授業スピードなどが分からないので、子供たちの中での違和感が発生しないか。
- ・ 児童数が増えることに伴い、山三小現在のクラブ活動数維持、または増やしてほしい。
- ・ 統合した場合の校舎はどこになるのか。

統合に対するアンケート結果

【南山田小学校児童の保護者が考える統合の課題】(98人 107件)

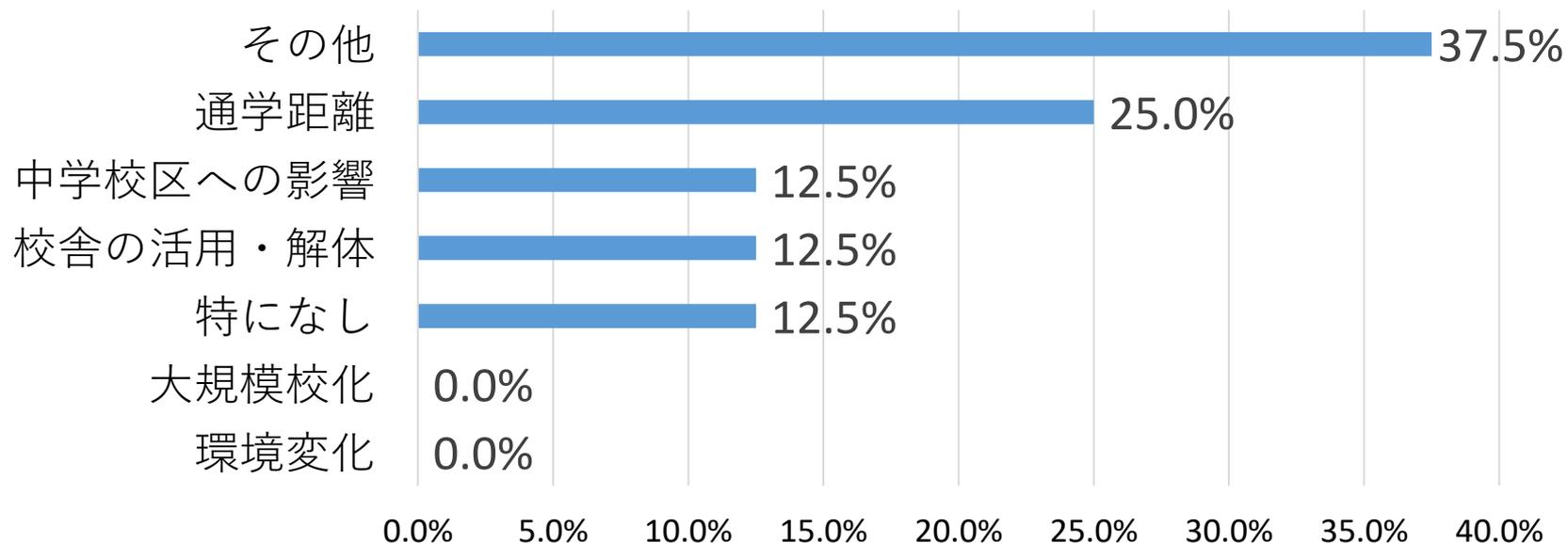


その他の意見例

- ・ 山田中学校の人数が減少することが課題。
- ・ 元々は山三を山五と分校した経緯があり、統合するのは無難だと思います。
- ・ 今後山田第三の校区で大規模な住宅開発があった場合、教室等足りるのか心配です。
- ・ 隣同士で、統合しても人数的には問題ないのだからこれでよい。
- ・ この距離で2校は無理があると皆さん思ってることですからね。

統合に対するアンケート結果

【岸部第二小学校児童の保護者が考える統合の課題】(8人 8件)



その他の意見例

- ・ 地域への影響が課題。
- ・ 敷地も統合できれば広い学校になりそうだ。

教育に係る中・長期的な計画

第2期吹田市教育振興基本計画 吹田市教育ビジョン (令和2年(2020年)～令和6年(2024年))

基本目標3 豊かな教育環境の創造

基本方向5 安心・安全で豊かな学校・園の教育環境を整備します。

施策2-2 過大校等の教育環境の整備

児童・生徒数の増加の要因である住宅開発の状況を速やかに把握し、適正な対応が取れる体制づくりを行います。また、児童・生徒数の増加や教室不足に対する今後の対策のあり方について検討を進め、より良い教育環境の整備に努めます。

さらに、一部では全学年が単学級となることが見込まれる学校もあります。今後の各地域における児童・生徒数の増減を見据え、教育環境の充実を図るために、校区のあり方などについて検討します。

今後の主なスケジュール（予定）

令和5年度

令和6年度

令和7年度

8/16

9～10月

10/23

10/31

11月

4月

学校規模適正化(第2期)の方向性を承認
教育委員会会議

地域諸団体への説明会
児童・未就学児保護者への説明会

学校規模適正化実施計画(第2期)を策定
教育委員会会議

政策会議
市長部局における意思決定

市議会に学校条例改正案を提案



周知期間
通学路の安全対策
学校の教室改修等
山三・山五交流事業

山五小・山三小を統合